平成29年(2017年)
10−11月号
（通巻　172号）
2017年度

市立 いちかわ 自然博物館だより

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！

いきもの写真館

自然博物館収蔵写真

アオサギ
長田谷津（大町自然観察園）にはアオサギがよく現われます。体験学習用の浅い池で大きなドジョウを捕えました。

P1　いきもの写真館
アオサギ

P2／3　長田谷津を解剖する
湿地の状態

P4　身近なところに花鳥風月
ホソミオツネントンボ

P5　街かど自然探訪
福栄・いろいろな木の実がたくさん

くすのきのあるバス通りから
真間川遡上

P6　展示室　飼育生物の話題
自然発生したエダアシクラゲ

P7　わたしの観察ノート
7月～8月の記録

P8　行事案内

博物館だよりはホームページでもご覧いただけます。http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/

長田谷津を解剖する
湿地の状態

湿地の植物群落の遷移

長田谷津のような自然を保全した場所の状態を知るには「植物群落の遷移」という考え方を知っておく必要があります。これは、その場所に生えている植物は時間の経過とともに種類が移り変わり、それにともなって景観や環境も変わっていくという考え方です。

図01に長田谷津を想定した模式図を示しました。何もしなければ、図の左から右へと植物群落は移り変わり、草刈りや掘り上げなど手を加えると、同じ段階でとどまったり前の段階に戻ったりします。長田谷津が大町自然公園として開設された時の段階は、「田んぼ（稲田）」から「休耕田（セリ）」への移行段階にありました。といっても全体が一様だったのではなく、場所によって「休耕田（カサスゲ）」や「浅い池」などの段階も見られました。それから40年以上が経過し、現在は「ヨシ原」「樹木の混じるヨシ原」の段階にあり、部分的に「休耕田（ミゾソバ）」「休耕田（カサスゲ）」「浅い池」などの段階が混じっています。

なぜ、前段階の場所が残っているかというと、手を加えたからです。たとえば、「ヨシ原」を掘って「浅い池」にした場所の一部は、その後放置して「休耕田（カサスゲ）」まで戻っています。昨年「休耕田（カサスゲ）」を掘った場所は、今年は「休耕田（ミゾソバ）」になっています。

遷移という現象によって植物群落が自動的に変化していく以上、ある状態を維持するためには管理が必要です。自然公園といっても管理は不可欠です。

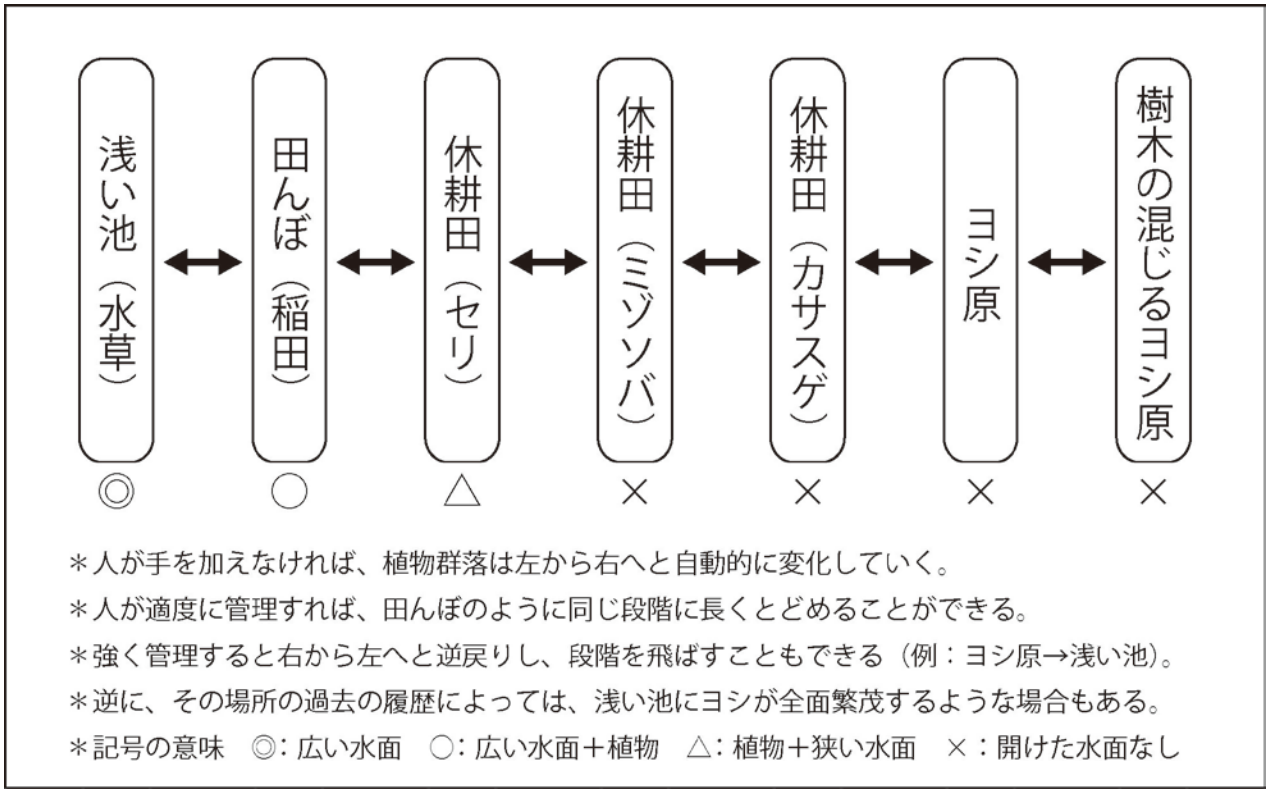


図 01　長田谷津の植物群落の遷移の模式図

遷移が進んだ場所

遷移が進んだ場所のようすを、写真01に示しました。ここは草刈りや掘り上げをほとんどしてこなかった場所です。そのため現在は「ヨシ原」の段階にありますが、実際にはヨシとガマが混じって繁茂し、その上に周囲から伸びてきたクズが覆いかぶさっています。

図01ではこの段階の場所には開けた水面がないとしていますが、この場所の場合、セイタカアワダチソウの抜き取りをボランティアの方が続けてくださっているので、ヨシやガマの根元には浅い水面がありヘイケボタルが生息しています。実際の状況は、模式図よりずっと複雑なのです。

写真 01　クズが覆いかぶさるヨシ原

遷移を戻した場所

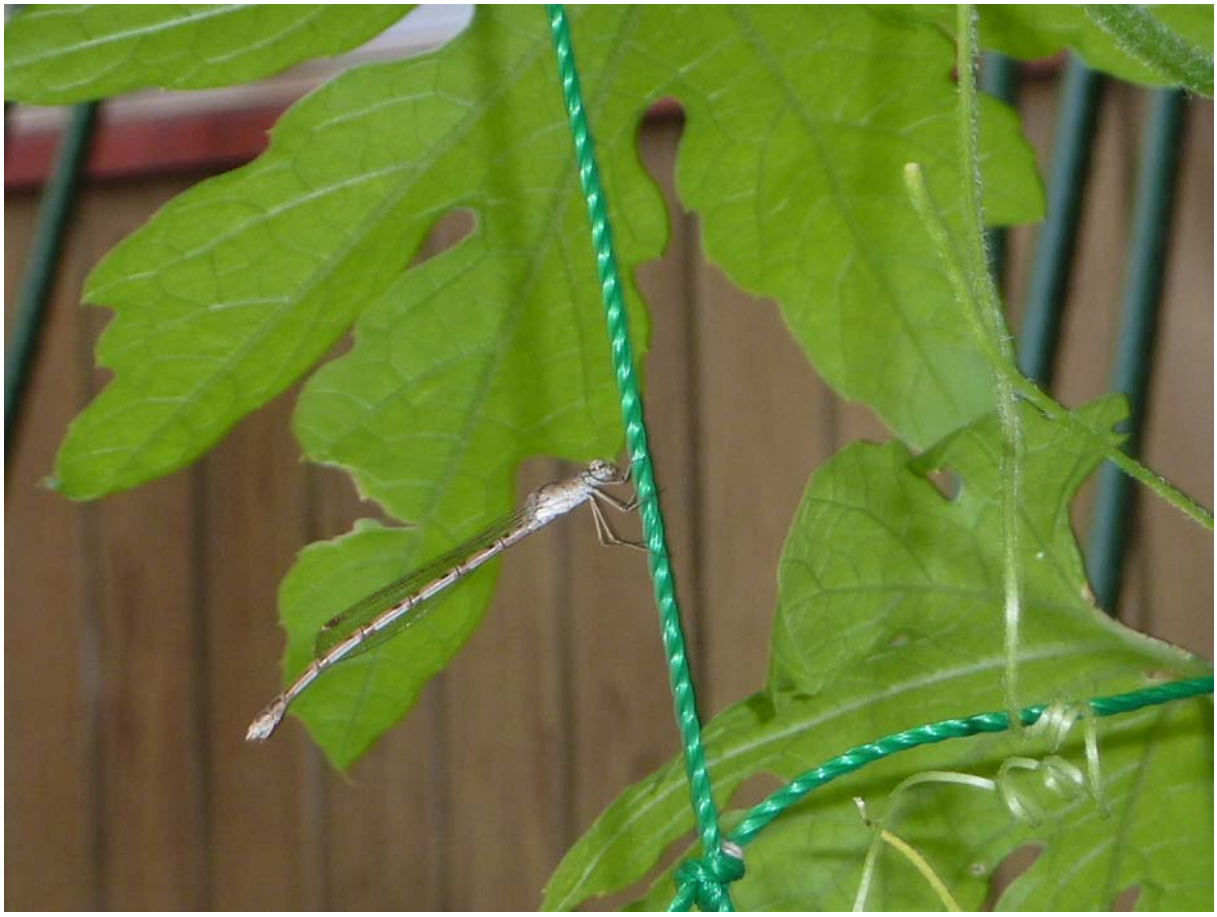
前述の「休耕田（カサスゲ)」を掘った場所というのは、実際にはカサスゲのほかに低木のノイバラが生えて次の段階へ進む気配があり、一方でミゾソバも生えていて前の段階の名残りもあった場所です。冬にノイバラを根っこから取り、全体を掘り上げ、掘った土をまわりに盛りました。

春にはミゾソバが大量に発芽しました。すごい量のタネが落ちていたようです。やがてミゾソバと、地下茎が残っていたヨシ、根が残っていたカサスゲが茂ってきたので掘り上げた場所を２回、まわりの土を盛った場所を３回、草刈りしました。その結果、秋の状態が写真02です。少しわかりにくいですが、ほぼ一面にミゾソバが生え、小さなヨシが混じります。ミゾソバは掘りkara上げた場所ではきれいに開花し、土を盛った部分は葉の状態です。また、掘り上げた場所にはそれまで見られなかったアゼガヤツリが生え、「休耕田（セリ)」の段階の要素が新たに現われました。

写真 02　掘り上げてミゾソバが群生した場所

基本となるのは「田んぼ（稲田)」の段階

アゼガヤツリは、土中で眠っていた種子が発芽したものです。このことは、遷移を戻せば、40年の間に消えてしまった植物のいくつかが復活する可能性を示しています。もともと、田んぼの名残りが残る「谷津田の風景」を残すことを目的に開設された自然公園です。その趣旨に立ち返るなら、長田谷津は「田んぼ（稲田)」か「休耕田（セリ)」の遷移段階が基準であり、そこに手を加えたり放置したりして前後の段階の場所を混ぜていくのが望ましい管理のあり方であるように考えられます。



ホソミオツネントンボ

身近なところに花鳥風月

当館学芸員の自宅の庭で出会ったさまざまな生き物を、
このコーナーでは紹介しています。

自宅の庭でホソミオツネントンボに出会うとは

夢にも思いませんでした。

長田谷津（大町自然観察園）では

トクサに止まって冬越しする姿が有名ですが

一般的には雑木林で成虫越冬するトンボです。

ヤゴが暮らす湿地や池と林を往復するだけと思っていたので

住宅地での出会いが驚きでした。

ガーデンという言葉があてはまらないワイルドな庭なので

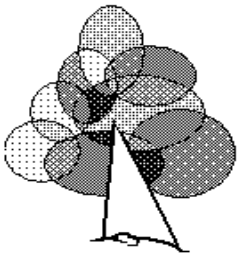
移動の途中に立ち寄ったのでしょうか？　7月のできごとでした。

街かど自然探訪

福栄（ふくえい）・いろいろな木の実がたくさん

丸浜川沿いの歩道を、木々を見ながらゆっくり散策しました。まだ熟していませんでしたが、いろいろな木の実が見られました。センダン、トウネズミモチ、エノキ、ピラカンサス、コナラどんぐりなど、鳥の餌になるように植えられた木や、鳥の糞に混じって種が運ばれ育った木が生い茂っていました。ムクノキでは、まだ青い実の方が多いのに、ムクドリの群れがにぎやかに実を探していました。

△ムクノキに飛来したムクドリ（○の中）
木の下を人が通ると、十数羽の群れが周辺の木との間を行ったり来たり。



くすのきのあるバス通りから No.114

真間川遡上

真間川水門から八方橋まで歩いてみました。根本水門までは歩いたことがあります。河口や原木の辺りは、車か電車で横切ることはありました。川に沿った道があるのか、歩き通せるのか不安でした。水門から直接東京湾を見通せませんでした。工場や倉庫と川の間に踏み跡があり、サギがいましたが、川の中に生き物は見られませんでした。舗装された道になり、三戸前橋に、二羽のウが電線にとまっていました。京葉道路の橋脚と護岸の窪みにカダヤシがいました。桜並木の遊歩道もありました。本中山や鬼高の辺りは、土地が低いのか、護岸が高く川が見えません。総武線の辺りでは川が曲がり、浅瀬があるせいか、川の中にアシが生え、アオサギやトンボがいました。千葉街道や京成線の辺りで小さなボラの群れが体をくねらせ、浅瀬に乗り上げるようにしていました。カダヤシもいました。北方橋までたくさんのボラがいました。八幡5丁目の電柱の電線に五羽のウがいました。いつもこの電線にいるので、歩道がフンで白くなっています。水掻きがあっても邪魔にならないようですが、体のバランスを取りづらいのか時々ユラユラしていました。

（M．M．）

展示室
飼育生物の話題

No.16

自然発生したエダアシクラゲ

海水を使っている飼育展示水槽は、基本的に丸洗いすることはありません。メンテナンスは、海水の入れ替えと濾過フィルターの洗浄のみです。それは、ひとつには水槽自体が濾過機として機能しているという考え方によっています。水槽内の砂や岩、貝殻などにも濾過バクテリアが付着して海水の濾過に一役買っていると思っています（思っているだけでデータによって実証したわけではありませんが……）。

もうひとつは、特に海産の生物の場合、微小な幼生が展示生物や貝殻に付着して紛れ込む可能性があるからです。実際、正体がはっきりしない「ミジンコ」的な生物が突然発生することがよくあります。

エダアシクラゲもそういう生物のひとつです。ある時、水槽のガラスに歯車みたいな小さな（径１～２ミリ）生き物が付いていることに気付き、観察をしていると、歯車みたいな形はクラゲを下から見た状態で、泳ぐときはクラゲらしく、傘を膨らませたり閉じたりして泳ぐことがわかりました。いくつかの水槽で、もう何年も不定期に発生しています。なお当館にはクラゲの専門家がいないので、正確にエダアシクラゲという種類なのかどうかは不確定であることを申し添えておきます。

わたしの観察ノート

◆長田谷津より

・広い面積の草刈りが終わった場所にタヌキが姿を現しました(7/2)。大きな草は刈られているので、タヌキの姿は遠くからでも丸見えでした。さすがにおかしいと思ったのか、斜面林の方へ走っていきました。

・澄んだ水が流れる中央水路で、3匹のハグロトンボのオスがからみあうように飛んでいました(8/12)。ふだんはひらひら飛ぶのに、こういう時はかなりのスピードで飛びます。

・草刈りをしていたら、草の根元に鮮やかなベニスズメ(蛾)が止まっていました(8/22)。まるで動かないので撮影し、あとから拡大して見ると触角が体についたままでした。羽化して間もない個体だったようです。

・自然観察園に試験的に植えたイネは、穂が垂れ、風情が出てきました(8/23)。ただ、根の張りが弱く、株も傾き気味でした。

◆大町より

・動物園内のザリガニ釣りをする人工の水路は、カワセミをはじめいろいろな野鳥が姿を見せます。この日は、冬に多いキセキレイが早くも来ていました(8/29)。

◆市川大野駅より

・JR武蔵野線の市川大野駅のホームで、隣接する林から聞こえてくるクマゼミの声を確認しました(7/19)。後日(21日)には、南大野の大柏川沿いの桜並木でも声を確認しました。

◆坂川旧河口より

・江戸川の堤防の斜面上空を、たくさんのウスバキトンボが行き交っていました(7/25)。強い南風に乗って、ほとんどはばたくことなく飛んでいました。

◆行徳鳥獣保護区より

・保護区の中は、鳥が運んできたタネが育った樹木でうっそうとしていました。木々の下を流れる水路にはベンケイガニ類がたくさんいました(8/19)。東京湾奥の環境ではカニは開けた海やその周辺、大きな川、谷津の流れにいるのが一般的です。その点で、木々の中で見るカニは、まるでマングローブ林にいるかのようでした。

◆江戸川放水路より

・アシ原の縁にあるアイアシが花を咲かせていました(7/8)。海辺のありふれた野草のはずですが、いまでは見られる場所も限られてしまいました。

・トビハゼの巣穴調査をしました(7/21)。去年より少なめでした。暑い日が続いたので繁殖が順調に進んで終盤になってしまったのか、暑すぎて泥の中から出てこないのか、そんな理由だと思います。

以上　金子謙一(自然博物館)

梅雨明けは早めの7月6日頃で、七夕の日はよく晴れました。その後、暑さが厳しく雨も少ないカラカラの天気が続きました。8月は一転して、東京都心で21日連続降雨記録となり、市川でも梅雨を思わせる天気でした。

行　事　案　内

長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月１回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

・日　時　　11月4日㊏、12月2日㊏、1月6日㊏、　午前10時～11時30分

・集合場所　　動物園券売所前　午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日　時	集合場所
秋の田んぼ	10月15日㊐午前10時～11時30分	動物園券売所前　午前10時
クロマツのある街なみ	12月17日㊐午前10時～11時30分	(未定)　午前10時

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いしてくださいませんか。

(雨天中止)

・日　時　　10月29日㊐、11月26日㊐、12月24日㊐、午前10時～12時

・集合場所　　観賞植物園入り口　午前10時

・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けをお手伝いしてくださいませんか。

(申し込み不要・雨天中止)

・日　時　　11月5日㊐、３月4日㊐

(12月、1月、2月はお休みです。)

午前10時～12時

・集合場所　観賞植物園入り口　午前10時

・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。

第29巻　第４号　(通巻第172号)

平成29年10月1日　発行

編集・発行/市立市川自然博物館

(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu /haku/